

地域イノベーションとURAの機能 ～「ポストアワード」のその先からの提言～

■基調講演

経済産業省における産学連携施策について

宮本 岩男 氏 (経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室長)

■パネルディスカッション

パネリスト

荒磯 恒久 氏 (北海道大学 産学連携本部 特任教授)

川野 克己 氏 (株式会社エスアールエル特殊検査部電気泳動課 担当課長
東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合 運営委員)

長廣 裕 氏 (公益財団法人 北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター
事業推進部 産学連携担当課長)

コメンテーター

宮本 岩男 氏 (経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室長)

■司会進行

小川 由紀子 (九州工業大学 リサーチ・アドミニストレーション・センター URA助教)

第4回URAシンポジウム

URA事業採択校セッション

地域連携とURA

2014年

9月18日(木) 10:15～11:30

北海道大学 学術交流会館 小講堂

地域連携とURA

2014年9月18日(木) 10:15~11:30
北海道大学 学術交流会館 小講堂

セッションオーガナイザー 九州工業大学

地域イノベーションとURAの機能 ~「ポストアワード」のその先からの提言~

URA事業(※1)も最終年度を迎え、今後は専門性の高い職種としての定着化が図られている。本セッションのテーマである地域連携は、URA制度が存在する前からある大学の社会貢献の一面だが、今後は大学の中長期戦略に従って、大学と企業の共同による一次元の技術のやり取りから、大学とファンディング・エージェンシー(行政機関・金融機関)、地域企業との二次元・三次元の連携による相乗効果を生み出すことが期待される。

そこで今回は、科学技術による地域活性化に焦点をあて、基調講演と地域産業に関わる「産」・「学」・「官」のパネリストによる公開討論を通じて、ポストアワードの先にある地域イノベーション創出からバックキャストして、URAに求められる機能について考える契機とする。 ※1 科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」

■基調講演

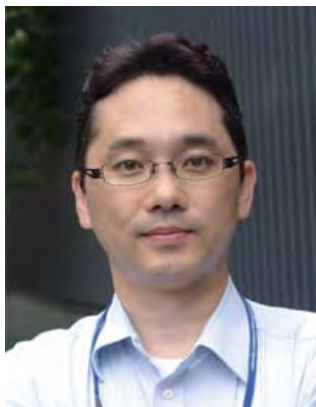
経済産業省における産学連携施策について

宮本 岩男 氏

経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室長

■講演概要

経済産業省においては、平成10年以降産学連携施策を推進してきている。具体的にはTLOの設立支援、MOT学科創設、大学発ベンチャー立ち上げ支援、大学等における産学橋渡し拠点の整備、理工系人材の実践インターシップの推進等の施策を実施してきており、産学連携の仕組み、体制は一通り形としては整備されてきている。今後は、これらの体制や仕組みがより効果的、効率的に機能するためのサポートが求められる段階に入ってきていると考えられるため、経済産業省としても文部科学省とともに産学連携の評価モデルの構築を進めてきている。今回のプレゼンにおいては、各大学における産学連携の仕組みがどのように機能しているかについての分析概要についても少しご紹介させていただく。



■パネルディスカッション パネリスト



荒磯 恒久 氏

北海道大学 産学連携本部
特任教授

1980年代以降、それまでの「中央研究所」中心型の産業技術形成に代わって、「産学(官)連携」によるイノベーション創出が世界の潮流となった。この潮流の嚆矢となったシリコンバレー型の方法は、国や地域によってさまざまなシステムに変化した。我が国においてURAはポストアワードの先にあるイノベーション・マネジメントをリードする高いポテンシャルを持つものである。地域イノベーションの姿、インターフェース機能を通してURAの可能性を見出したい。



川野 克己 氏

株式会社エスアールエル特殊検査部電気泳動課 担当課長
東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合 運営委員


技術研究組合の活動と共に、九州歯科大学を中心とした医歯工連携にも参画し、歯科領域における臨床検査の構築について携わっている。当技術研究組合は、実用化をキーワードに研究機関と企業と一緒に活動している。さらに、組合員より低いハードルでの加盟者を含めた勉強会、加えて、オープンな交流、情報交換の場として年1回「研究交流フォーラム」を開催しており、組合員以外からも研究助成案件の公募を行っており、優秀な案件にはポスター発表をお願いし最終審査後、研究助成を行っている。



長廣 裕 氏

公益財団法人 北九州産業学術推進機構
産学連携統括センター 事業推進部 産学連携担当課長

当財団は、平成13年設立され、地域の産業を支える知的基盤として北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動している。当財団では、独自のファンドの仕組みを備え、大学若手研究者支援、産学連携による企業の新事業立ち上げ支援を目的に資金提供している。また、当財団設備の保有する各種設備利用のサービスも行っている。

お問い合わせ先:  国立大学法人 九州工業大学

九州工業大学 リサーチ・アドミニストレーション・センター

小川 由紀子

TEL/FAX: 093-884-3565 E-Mail: ura-office@ccr.kyutech.ac.jp

H P : <http://www.kyutech.ac.jp/ura/>